

# スタート!

No.1 東大和障害福祉ネットワーク NEWS

発行責任者  
海老原 宏美  
東大和市南衛 1-22-6  
シティコート南衛1階  
自立センター東大和  
TEL.042(567)2622

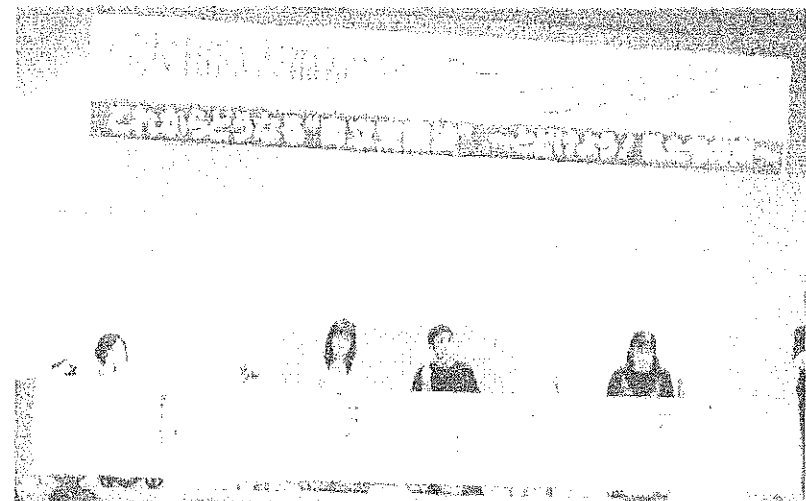
## 東大和障害福祉ネットワーク設立!

はじめまして!このたび、東大和障害福祉ネットワーク代表を拝命いたしました、海老原宏美と申します。私は脊髄性筋萎縮症という障害があり、日常生活にはほぼ全介助が必要です。日中は酸素吸入をしつつ、夜間は人工呼吸機も使っています。しかし、現在は市内でアテンド(介助者)のサポートを受けながら、一人暮らしをしています。東大和で自立生活を始めてもうすぐ丸5年目になります。

川崎出身の私は、始めは「東京は沢山の便利な制度があって、なんと生活しやすいのだろう!」と感動していました。しかしその内、市の窓口での、ある言葉が耳につくようになりました。それは「国が・都が決めたことなので何ともいえません。」という言葉です。確かに、上の行政が決めたことは変えられないことも沢山あると思います。しかし、東大和市には、市民が困っていることや不安な気持ちを一緒に分かち合い、共に工夫していきましょう、という姿勢が感じられず、放り出された感じがすることが度々ありました。

そんな時、どこに相談すればいいのだろう、市内の情報はどこから得たらいいのだろう、他の人はどうしているのだろう、など、行き場がない現実がありました。特に、この4月から障害者自立支援法が始まり、障害を持つ人の制度が根本的に変わってきています。制度をどのように使ったらいいのかわからない人も沢山出てくるでしょう。

情報共有や相談の場がないなら、作ってしまえばいい!そこで、立ち上がったのが、この「東大和障害福祉ネットワーク」です。市内には、障害当事者も沢山のし、作業所も、親の会も沢山のあります。お互いが持っている情報をみんなで共有できたら、どんなに便利なことでしょうか。もし、多くの方が共通して困っていることがあるのであれば、その声をまとめて

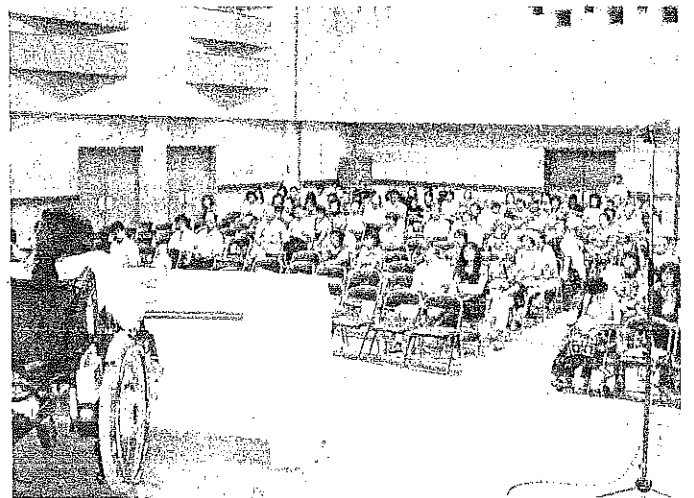


市に届けることもできるでしょう。大したことないと思っている情報が、実は他の人にとってはとても大事な情報かも知れません。「無知」ほど自分の立場を弱くしてしまうものはありません。「情報」という風を流し、福祉にとって通気性のいい街にしていきたいですね。どうすれば通気性がよくなるか、最初は試行錯誤かもしれ

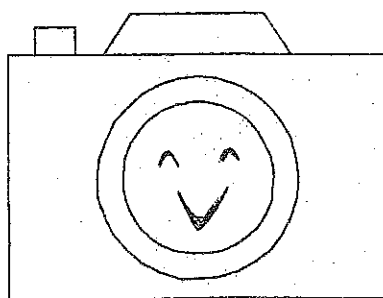
ません。しかし、とにかく、動いていくことに意義があると思います。是非、皆様のアイデアもお寄せください。趣旨に賛同して下さる方は会員さんとして歓迎いたします。そして、このネットワークは会員さんひとりひとりが主役です。どうぞよろしくお願ひします。

ネットワーク設立を受け、去る7月13日に「東大和障害福祉ネットワーク設立シンポジウム：これからどうなる!? 障害者自立支援法～届けよう私達の声～」を中央公民館大ホールにて開催いたしました。このシンポジウムには、東大和市と東大和市社会福祉協議会も後援についてくださり、当日は約200人の方のご来場がありました。初代役員の紹介、会則の承認を経て、シンポジウムへ。シンポジストとしては、居宅介護サービスを受ける立場、作業所を運営する立場、作業所を利用する立場、自治体の制度を利用する立場からそれぞれアピールをしていただきました。

「措置から契約へ!」のスローガンを掲げて始まった「自己選択・自己決定」の支援費制度は、財政的な破綻に依って3年という短い寿命がつかしました。支援費制度に代わる制度として現れた「障害者自立支援法」は経費削減のための制度に他なりません。代表的な改革が「一割負担」。誰もが好んで障害を持ったわけではないのに、障害をもちながらも地域で障害のない人と同じように当たり前の生活を送ることが「益」と見なされ、当たり前の生活を「買う」ことを強制されているのです。



福祉がもはやボランティアというレベルではなく、ひとつの確立した「職業」として人が従事できるように、そして福祉サービスの利用者は「サービスの受け手」ではなく「サービス従事者の雇用者」という社会的な役割を担い、サービス提供者と対等な立場で生きるという概念が広まってくれることを心から願うとともに、そのような環境作りに励んでいきたいと思ひます。



当日の様子を記録したビデオテープの貸し出しをします。  
ご希望の方は自立生活センター(CIL)の事務所にお問い合わせください。

電話:042(567)2622

シンポジウム当日に来て下さった方々が率直な意見をアンケートに寄せて下さいました。

### ネットワークに何を期待しますか？

- ・ 1人の悩みも皆で考える。
- ・ 横のつながり・パイプ作り(市内の団体・作業所をお互いに知る)
- ・ 東大和の福祉の向上に団結して力を発揮してください。
- ・ 行政への意見をまとめる事
- ・ 情報交換望みます。
- ・ ハンデのある人が手をとってこれからも協力しあえたらと思います。
- ・ 障害者の生活いろいろの窓口となってほしい。
- ・ 東大和在住の障害者がごくふつうのあたり前の生活が出来る様、皆で手をつないで、よい市になるよう頑張りましょう。
- ・ 一般市民をまぎ込んでゆける運動の中心になること など



### 市に要望したいことはありますか？

- ・ 学校卒業後の障害児のことをきちんと考えてほしい。
- ・ 行政(親ももっと勉強して)も担当部署、その当事者やその家族の話を聞くのに積極的に勉強や研修をしてほしい。
- ・ 当事者と直に接してほしい。もっと優しく対応してほしい。福祉に関する諸問題を学習してほしい。
- ・ 障害者が必要としている事柄を認識していただきたい。
- ・ 心のこもった対応を
- ・ 福利サービスの充実
- ・ 自立支援法には問題が多々あります。都・国への提言を要望します。
- ・ 他市にある福祉総合センターを作ってほしいです。
- ・ 障害者の立場に立ってほしい。
- ・ 福祉の後退はしない様に。前進する様に。市独自の補助の体勢を創ってください。
- ・ 障害程度区分2次判定のシステムがしっかり当事者家族の意見を聞いていただけるようにしてほしいと思います。

など



7月13日の設立シンポジウムのあと、早速7月25日に第一回の役員会を開き、シンポジウムのまとめや役員会のもち方、今後の活動内容について意見を出し合いました。その時話し合われた活動の内容や課題を整理すると次のようになります。

### 今後の活動内容と課題

#### \* ネットワーク独自のもの

- ・ 会報の発行・・・問題点のまとめ、様々な情報、賛同団体の紹介など
- ・ 賛同団体へのアンケート・・・実態調査と課題の掘り起こし
- ・ 賛同者の声をどう集めるか・・・メーリングリストの活用
- ・ 地域福祉審議会の傍聴
- ・ 他市のネットワークとの交流
- ・ 災害時の障害者対応マニュアルの作成

#### \* 市に対するもの

- ・ 支給基準はいつ出るのか
- ・ 障害福祉計画の策定に市民の声をどう反映させるのか
- ・ 地域生活支援事業の計画はいつ出るのか
- ・ 具体的に分からないこと、また作業の進行具合などについては、ちょくちょく直接市に聞きに行く

\* いずれ、地域福祉審議会委員との話し合いや、市議会議員との話し合いなども視野に入れたいが、まず、会報の発行と賛同団体へのアンケートを実施することになりました。

### 編集後記

東大和市障害福祉ネットワークの会報「スタート！」第一号が発行されました。今までばらばらだった障害者団体や個人が手をつないで新しい東大和の障害者福祉を考え、よりよい地域生活を送るためにも力を合わせていきましょう。正に「スタート！」です。「自立支援法」が実施される中で課題は山積みしていますが、一步一步進んでいくしかないように思います。そして何より、できるだけ多くのさまざまな意見や情報を集めることが出発点になります。「声」をどう集めるかには早速取り組んでいくつもりですが、皆様からの積極的なご意見と情報をお待ちしています。(by T)

### ご協力ありがとうございました

「心身障害者児通所訓練等事業」継続・発展を、東京都に求めるための署名のご協力ありがとうございました！

おかげさまで8月10日現在280名近くの署名が集まりました。放課後連東京全体でも8000名以上の署名が集まっています。目標は2万名都議会を動かそう！！。

\*この指とまれ 564-2883

\*グループゆう 568-6700

### たくさんのカンパを頂きました

当日、シンポジウムに参加して下さいました方々からたくさんのカンパを頂きました！

**合計 ¥78,020**

頂いた貴重なお金は東大和障害福祉ネットワークの運営費として大切に使用させていただきます。ありがとうございました。